

2008年1月1日

Vol.55

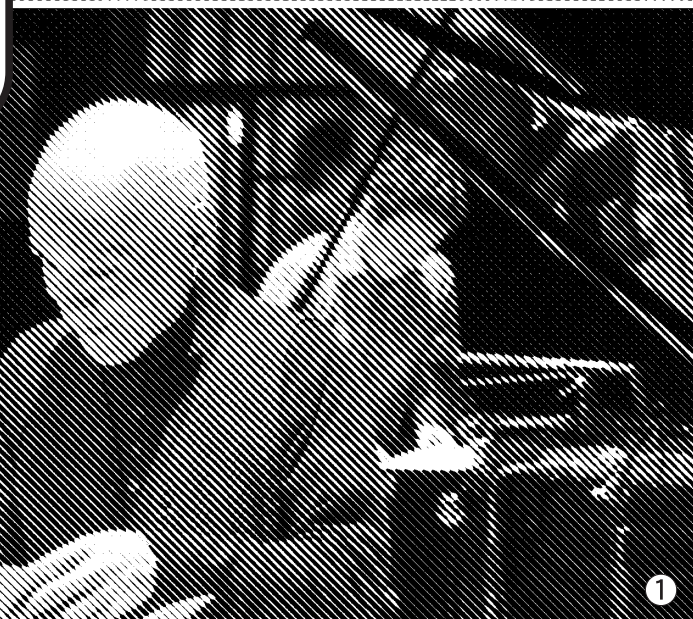
みみん みみん



【題字】 谷川俊太郎さん



③



①

11月1日～3日に行なわれた10周年イベント。①谷川俊太郎＋谷川賢作コンサート、②NPO支援のワークショップ、③まち歩きツアーありと欲張りな企画となりました

明けましておめでとうございます
本年も何卒宜しくお願い申し上げます

■目次

- P2～3… 10周年記念講演「目覚めよ日本！頑張れNPO！」報告
- P4～5… せんだい・みやぎNPOセンターの事業から
- P5 …… チョットかじってみよう！CSR
- P6 …… 寄稿「幅広い実務支援の可能性に挑戦！」小林董信さん
理事リレーコラム 代表理事・大滝精一
徒然ぶろぐ
- P7 …… 活動ダイアリー
ランチLive“パスタでも、おにぎりでも”第1回
- P8 …… 新規会員・継続会員
お知らせ、編集後記、連絡先等



②

10周年記念講演

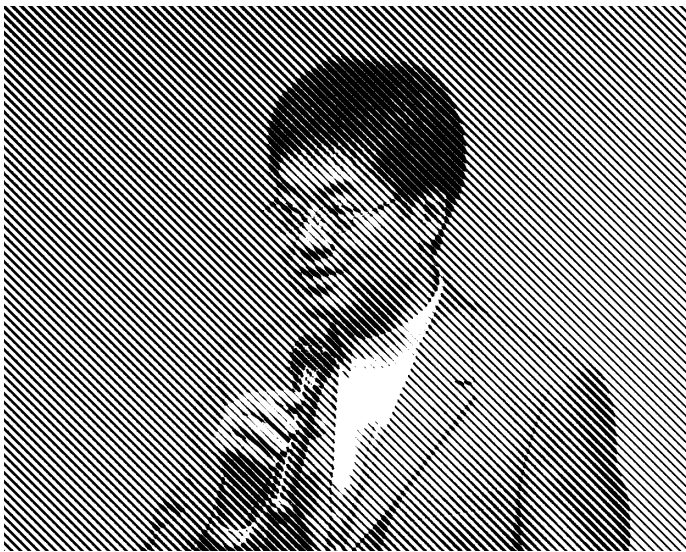
■覚醒のネットワークから18年

私の文筆家としてのキャリアは、仙台から始まっています。1989年まさにベルリンの壁が崩壊したというとき、『覚醒のネットワーク』という本をカタツムリ社から出版しました。そして、私がこの本で、「癒し」という言葉を日本社会に初めて送り出したということになっています。

しかし、そのとき私たちが言い始めた「癒し」は、自分自身が生きていくという意味に気づきながら、なおかつこの社会をもっと人々が癒される社会に変えていこうというものでした。根本的に癒し型の社会に変えていこうと言っていたものが、最近、ただ疲れたから癒されようというふうに使われているのは、そうとう陳腐化していったということです。

さてこの本を今読み返してみると、文中にこうあります。「日本ではまだ広く知られていないこのNGOという活動はこれから着実にひろがっていくことでしょう。」つまり、これからの国際協力はNGOが重要だと書いてあるのです。

1989年の時は、NGOの存在をほとんどの人が知らず、NPOと



という言葉も全くなかったと思います。それがこの18年間でNGO、NPOという言葉もこれだけ言われるようになり、今やNPOなしでは我々の生活は1日たりとも進んでいかないというぐらいに広がってきたというわけです。

しかしながら、私が今日ここに呼ばれているのは、NPO万歳ということ言うためにだけではないだろうと思います。これまで10年間のNPOの活動は大変充実していたのだけれど、このままずっと進んでいってあと10年後に、果たしてNPOが日本社会の未来を切り開くものになっているだろうか。

もしかしたら、癒しブームのように、10年後には、NPOはものすごく栄えているのだけれども、日本社会は何かかわっていないというふうになる可能性すらあるわけなのです。

目覚めよ日本! 頑張れNPO!

日時:2007年11月2日(金) 14:20~16:20

場所:仙台市市民活動サポートセンター

講師:上田紀行さん(東京工業大学大学院准教授)

■NPOは日本社会の 未来をつくれるか

さて、NPOの現状がどうなっているのか、私は現場にいるものでないので分かりづらいのですが、NPOがどれだけ日本社会の中で重要な存在になっているかということは想像に難くないことです。私の地域社会を見ましても、子育て支援であるとか、環境の問題であるとか、国際交流であるとか、いろいろなNPOがあります。

しかしながらこの頃私は、NPOが本当に未来を創造するものに成り得るのだろうかと思うのであります。まわりを見渡すと、何かNPOというのは行政やこの国の政治やシステムの穴埋めのように使われてはいないか。

本当は政府や行政がやるべきことなのに、効率化といってどんどん穴があいたところをお役人がやるよりコストが安いNPOに任せておこうという流れが一方ではあるのではないかという感じがします。

NPOはものすごく沢山できて、あれもこれもNPOと分業化しています。しかしながら、NPO全体にNPOの運動をまとめて日本をより良い方向に変えていくという、思想であるとか潮流であるとか大きなうねりのようなものがあるのだろうかという気がします。

この日本社会の中で何が一番求められているのか、そしてその中でNPOがどのような可能性があるのか、そして本当に我々を幸せにし、日本社会の未来を切り開いていく原動力になるのかということなのです。

■頑張れNPO!

NPOあるいはボランティアをやっている人たちに対して、社会の人はこんなことを言うんですね。「やあ、お好きでやっていて

28.この数字は11月のはじめに行なわれた10周年記念事業3日間の開催時間です。文字通り長く濃い収穫の多い3日間でした。当日は、北は北海道から南は沖縄までたくさんの方に起こしいただきました。内容は、現在記念誌編集チームがまとめている最中。3月までには発行する予定です。そこで今回は一足早く、2日に行なわれた上田紀行さんの記念講演記録から抜粋したものを紹介します。

いいですね。お好きでやっているから儲からなくてもいいし、お好きでやっているからあなたたちは自由ですね。」と。

NPOの運動が始まったとき、それは自己表現であり、自分探しでもあり、個人の真心、善意から行なっているんだというところまでは良かったと思うのです。

そういうなか正当に世の中が回っていないということに対して、それを補完するのではなく、ちゃんと世の中を回していこうよというメッセージを発しなければならぬのだと思います。NPOが、行政や行政システムが切り捨てたものを補完しますよということばかりやっていると、結局のところ、それでいいんだ。弱者を切り捨てても、NPOがやってくれるよ。社会のメインストリートを勝ち組みと負け組みに分けてしまっただんどん弱者を生み出しつつけても、ボランティアの人たちや善意のあるNPOの人たちがいてやってくれるよ。それならその善意に任せて、悪意のあるオレたちは…。そういう世の中になってしまうと、だめなんじゃないのと私は言いたいのです。

だから、時代全体がどこに向かっているかを認識し、ちゃんとやるべきことは言う、あるいは止めるべきことは止める。そして新しいものを提案するというように、大きな流れという感覚を見ながら、一つ一つの個別の問題に親身に対処していくことが必要なのではないかと思います。

■生きることの意味とNPO

私は、著書『生きる意味』の中で、人間はやはりかけがえのないものだ。このことを根本におかなければこの社会は成り立っていないのではないのか。道具であったり、そういうふうに使われたりするというを根本に添えて人間の原理というものを組み立てていくことは絶対にありえないことだと主張しています。

この本を今の大学生に読ませると驚くべき反応で「先生、そんなこと言っただけ時代は戻らないですよ。だって、勝ち組、負け組

を分けるのは、時代の趨勢じゃないですか。」と、本気で言うから驚きです。「先生ひとりがこんな本書こうが止まらないですよ。」と、平気で言いますよ。「先生まだ若いな。」なんて言われちゃうんです。

だから、その中でNPOをやっていることの認識がむちゃくちゃ必要です。つまり、私たちの社会というのはものすごく孤独な社会になっている。恐ろしいことに、結局はだれも助けてくれないんだっていうことをデフォルト、つまり最初の一番の基盤、一番の人間意識としての根本に据えなくてはいけないということになってきているんじゃないかということです。「実はだれも助けてくれないんだという社会」は、そうとういろんな意味で危ない社会ですよ。それは、自暴自棄になってみんな何をやり出すのか分からないという個人の問題でもあるし、個人の健康、心の健康というのがすごく蝕まれている社会でもあります。もう一方では歴史が教えているところでは、一人ひとりの支えがないということに対して、じゃあ大きな支えを与えてあげましょーと言って、ナショナリズムとか、いわゆるものすごく大きな意味での愛国心が強調される社会になるんですね。

最後に、NPOというのは我々の生きているということが持っている豊かさや多様な意味を大切に、大切にしていっていきながらではないかと思っています。

人間のかけがえのなさが失われ、生きることの意味が一元化され、効率化されていくなか、我々が追い立てられ、「どうせオレなんか居なくてもいいんだ。居ても居なくても同じなんだ」と思わされている世の中において、本当に一人ひとりを大切にしておくことなのです。そして、これからの時代は「生きる意味」を一人ひとりがオーダーメイドしてく時代になっていくのではないのでしょうか。

NPOの活動にかかわりながら、あるときは自分が提供する側にあり、あるときは提供される側にある、その両方を体験してくなかで、まさに生きていくことの意味に気づいていくのではないかと思っています。(記録・編集：葛西淳子)

◆ 上田紀行さんプロフィール

1958年生まれ。東京工業大学大学院准教授。
現代社会の構造的な矛盾に根底からメスを入れ、
斬新な提言を続けてきた文化人類学者。

◆ 上田紀行さんの本

『覚醒のネットワーク』カタツムリ社(1989年)
※「癒し」ということを最初に唱えた新しい社会運動論
『生きる意味』岩波新書 岩波書店(2005年)
※06年度大学入試出題第一位
『目覚めよ仏教—ダライ・ラマとの対話』NHKブックス(2007年)
※ダライ・ラマと2日間に渡って対談

せんだいCARES2007

今年のせんだいCARES2007は、仙台で活躍するNPOに加え、在仙企業の社会貢献についても幅広く市民の皆さんに知ってもらうことに力を入れました。今回のみんなでは、11月13日～18日にNPOと企業が一緒になって開催した「いきいきNPOweek」の報告です。では、ある日の会場の雰囲気を実況風にご紹介したいと思います。

■5日間で27ステージ、3,602名の入場者

「いきいきNPOweek」の会場は、仙台市街からアクセス抜群の東北電力グリーンプラザ。バス乗り場からガラス越しに見えるのは、クリーンアップ蒲生さんの展示「トランクミュージアム」です。これは、海の楽しさや海洋汚染の実態を伝えるために、いろいろな漂着物を旅行用のトランクにつめこんだ小さな移動式の「博物館」だそうです。

いざ会場へ足を踏み入ると、そこは福祉・国際協力・環境・まちづくり…など多様な分野で活動するNPO15団体と、企業3社、行政1の合同展示場です。展示会場には各団体のブースだけでなく、ステージ発表もあります。ステージにマジシャンが登場し、手品を披露し始めたのは、富士通(株)さんによる環境活動の紹介です。リデュース(ごみ減量)・リユース(繰り返し使う)・リサイクル(再資源化)の3R(スリーアール)について、手品を交えて楽しく教えています。

このように、各団体が入れ替わり立ち代り、5日間で27ステージの発表を行ないました。出展したNPO・企業にとっては、「何をどう伝えるか」を考える機会となったのではないかと思います。

期間中に来て下さった入場者は3,602名。買い物途中や、バスの待ち時間に「ふらっと」立ち寄ったという方が多く、皆さん気の向くままに会場内を見て回り、ステージの発表に耳を傾けていました。

パソコンが起動しない! 映像が流れない! など、舞台裏ではハプニングも起こりましたが、何とかクリアしてやり終えました。皆さんご協力ありがとうございました。(千葉やす恵)

■いきいきNPOweek参加団体は、次のとおりです

アマニ・ヤ・アフリカ、(株)一ノ蔵、(特活)オハイエ・プロダクツ、片平たてもの応援団、CAPみやぎ、クリーンアップ蒲生、「最後まで一緒にいっしょ!カンとブルタブ」ぷろじェくと、独立行政法人国際協力機構東北支部、(特活)さをりひろばネットワーク仙台、(社福)仙台市社会福祉協議会、仙台市リサイクル推進課、(特活)せんだい・みやぎNPOセンター、(特活)ソキウスせんだい、東北労働金庫宮城県本部、東北H I Vコミュニケーションズ、早寝早起き朝ごはんin宮城実行委員会、富士通(株)、(特活)まちづくり政策フォーラム、宮城青年国際交流機構

児童館とNPOをつなぐプロジェクト

住友生命の100周年記念事業として全国3都市で進められているプロジェクトは、仙台では東四郎丸児童館と通町児童館でNPOや市民団体、町内会、企業などの協力により、各5回のプログラムが展開されています。

■東四郎丸児童館:地域の文化創造に取り組み

(特活)FORYOUにこにこの家が運営する東四郎丸児童館での第1回は「仙台二胡の会」によるナイトコンサート。第2回は(特活)ふれあいサポート館アトリエによる「ピカソもびっくり! みんなでアート!」は、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」の世界をペインター(株)提供の画材で透明なアクリル版に描きました。第3回は(特活)広瀬川の清流を守る会による名取川の環境学習と河川清掃の予定でしたが、雨天により児童館で川に関する大人の話を聞く会になりました。第4回は、(特活)都市デザインワークスによるまちの探検、東中田ウォークラリー「私たちのまちを知ろう」です。各プログラムは地域子どもたちによる「チーム東中田っ子」が準備段階から参加し、町内会や老人クラブ、小学校の校長先生、大学のボランティアサークルなどの協力を得ながら、子どもたちの体験の機会を創出しています。

■通町児童館:お米にこだわった食育

(特活)みやぎ・せんだい子どもの丘が運営する通町児童館での第1回は、「仙台市民の森を創る会」による「竹筒でご飯を炊く」です。竹林から竹を切り出し食器づくりにも取り組みました。炉のかわりのU字溝は仙台市役所が提供してくれました。ご飯以外の調理は男の台所の賢和会が担当しました。第2回は、加美町小野田の生来院の和尚による「食へのマナー・精進料理に触れる」です。調理は仙台男子厨房に入ろう会(男厨会)が担当し、本格的な精進料理を頂くことが出来ました。第3回は(特活)スローフード宮城による「宮城の郷土料理を食べよう」です。おにぎりワークショップ、頭の付いた秋刀魚を頂き、調理は男厨会が担当しました。第4回は(特活)環境保全米ネットワークによる「新米の食べくらべをしましょう」です。10種類の新米の食べくらべに悪戦苦闘です。この回で使った電気釜10台は(株)日立製作所の提供によるものです。各プログラムで使われるお米は環境保全米ネットワークから、野菜類は朝市夕市ネットワークより供給され、より生産者に近いところから安心して安全な食材で食育プログラムが運営されています。さらに、会場は児童館向かいのみどりの森幼稚園を使い、近隣の萬勝寺、永昌寺、玄光庵の協力も得ての開催です。

NPOと児童館をつなぐプロジェクトですが、NPOだけでは出来ないことを地域団体やお寺、企業、幼稚園、小学校、大学、行政機関などの協力も得ながら展開されています。(黒澤学)

仙台市市民活動サポートセンター

誘導・啓発事業「出前サポセン」

今年度の誘導・啓発事業「出前サポセン」は、「サポセンひろば」というかたちで、仙台市内5つの市民センターへサポセンがおじゃまし、サポセンの機能やサービスを提供するというものです。10月は沖野市民センター、12月は鶴ヶ谷市民センター、長命ヶ丘市民センターで行ないました。

「サポセンひろば」では、サポセンの機能やサービスの紹介、仙台市内の団体情報などを持ち込み、市民活動に関する情報提供、相談などを行なっています。また、開催地域で活動している市民団体に参加していただき、活動紹介を行ないながら団体のPRやネットワークづくりの機会を提供しています。また、団塊の世代の方々へNPOを知ってもらう「NPOいろは塾」も併せて行なっています。

■サポセンでは分からない地域の状況

地域へおじゃましてみると、地域のニーズに対応する活動をやるうとしている方、趣味を活かして学校や高齢者の施設へ活動を広げている方、地域での活動をコツコツと続けている団体にそれぞれ活動の悩みがあることなど、サポセンでは分からない地域の状況が見えてきました。また、自分たちが行なっている活動がNPOかどうか分からないという方や、残念ながらサポセンをご存じない方もおられたり…。それを知っただけでも私たちは市民センターへ行った甲斐があったと実感！郊外へ行けば行くほど、サポセンは遠い存在なのです。



■地域独自の支援作り

これまで開催した「サポセンひろば」を通じて、地域で活動している団体をもっと地域住民に知ってもらうこと、何らかの活動の芽を持った方の一歩を踏み出すきっかけづくりや情報提供、すでに活動している団体の悩みを聞き、解決の糸口を見つける手助けの必要性といったことに気付きました。そこから、サポセンで行なっているサービスの見直しや他施設との連携のあり方など、新たな取り組みを考えるヒントをいただいている事業だと思えます。これからもより多くの声をお聞かせいただくため皆さんの地域へおじゃまします。

年明けは2月9日中田市民センター、3月8日折立市民センターで「サポセンひろば」を開催予定です。お近くの方はぜひお立ち寄りください。(伊藤浩子)

チョット

かじってみよう！CSR。

1

「儲けて悪いんですか?」と言っていたホリエモンも村上ファンドも、今は昔。企業の偽装謝罪会見で法令遵守(ほうれいじゅんしゅ)とかコンプライアンスという言葉をたびたび耳にすることが多かった2007年。そこで、本紙ではちょっとむずかしそうな「CSR」をひとかじりしてみたいと思います。

■CSRとは?

CSR(Corporate Social Responsibility)とは、日本語では「企業の社会的責任」と訳されます。最近では様々なメディアで目にする言葉になりましたが、皆さんは社会的責任と聞いて具体的にどのような事をイメージしますか?一部では法令遵守(コンプライアンス)や環境保全活動として理解されていますが、もちろんそれだけではありません。一例を紹介すると、男女や年齢の違いによる雇用や昇進の差別を無くす取り組み、従業員の労働環境改善の取り組み、顧客や従業員の個人情報保護に関する取り組み、従業員のボランティア活動を奨励する取り組みなど、その内容は広範に及びます。

こう見ると、CSRへの取り組み活動はとても難しいように思えますが、本業の負担にならないよう会社の規模にあわせ、自社ができる範囲で本業を活かした魅力的なCSRを行なっている企業はたくさんあり、むしろメリットにさえなっています。

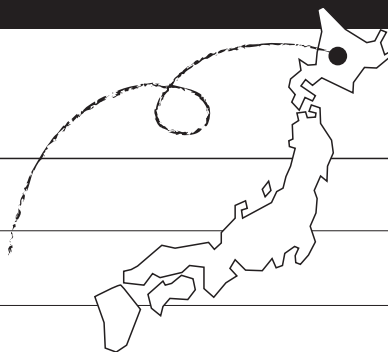
しかし残念ながらそれが一般の人に上手く伝わっている状況ではありません。身近な企業のCSR情報をお伝えるため、次回からは実際に県内の企業へインタビューを行なうなど、事例紹介をしていきたいと考えています。

■初開催！CSR Evening ～仙台で新たな動きが始動～

「仙台のCSRをもっと盛り上げていきたい!」そんな想いを持った、NPO・企業・行政・学生が集い、「CSR Evening」というイベントが12月1日にせんだいメディアテークで開催されました。今年の8月に実施されたCSRセミナーやCSR報告書調査(東証1部上場企業のCSR報告書を読み解く)に参加した方々が集まったグループです。

第1回となる今回は、参加者の自己紹介や全国の公益情報が集まるポータルサイト・CANPANの「第1回CSRプラス大賞」にノミネートされた、イトス(株)の事例発表などが行なわれました。

これを足がかりに、来年以降勉強会やセミナーを開催しながら、仙台でCSRを支援する取り組みをしていきます。ご期待ください!(高橋陽佑)



●全国の支援センターから
せんだい・みやぎNPOセンター設立10周年に寄せて

「幅広い実務支援の可能性に挑戦！」

(特活)北海道NPOサポートセンター 事務局長・小林董信さん

NPO法が成立・公布されたのが1998年3月25日でした。その3日後の3月28日に北海道NPOサポートセンターは誕生しました。その後、9年の間に道内に1,300を超えるNPO法人が誕生しました。私たちの取り組みの特徴例を2つご紹介いたします。

1つ目は、1995年に結成した「NPO推進北海道会議」を母体として機能別に「北海道NPOサポートセンター」、「北海道NPO越智基金」、「北海道NPOバンク」などの法人を独立させ、活動の幅を広げてきました。同時に、事務局機能を北海道NPOサポートセンターの事務所1ヶ所に集約するという手法を試行錯誤しながら実践しています。2つ目は、個別NPOの実務支援に力を注いでいることです。法人設立支援(338法人)、会計支援(378法人)、助成(273団体1,743万円)や融資(108件17,300万円)による事業支援を実施しています。

これからは、せんだい・みやぎNPOセンターが先駆的に実施している「サポート資源提供システム」等の優れた「仕組みづくり」に学びつつ、個人的には国や自治体のNPO認知度を飛躍的に高め「政府特会(※)」資金の市民活動への供給の仕組みづくりが必要と考えています。



※財政融資資金特別会計などのいわゆる埋蔵金

●理事リレーコラム

「私と市民活動10年」 大滝精一(代表理事)

せんだい・みやぎNPOセンターが誕生して今年で10年。10年と言えば、時代のひとつの区切りと考えてよいが、あっという間の10年というのが、私のいつわらざる実感である。それほどこの10年間には、いろいろなことが起こったのである。

当センターがここまで来ることができた背景には、誕生前のプロローグ時代があったことを忘れてはならないと思う。私自身、知識としてはNPOのことを知っていたものの、市民活動の実践に関心をもつようになったのは1992年頃からであり、その後「仙台NPO研究会(※1)」に参加し、中間支援組織の必要性を強く感じたことが、今でも自らの市民活動の大きな支えとなっている。日本全体では1995年の阪神・淡路大震災がきっかけとなって、NPOへの関心が急速に高まっていったが、そうした世の中の動きとある部分では呼応しつつも、独自の基盤を築く準備はしっかり実践につながっている。

当センターのこの10年間の貢献は、それぞれがテーマや地域ごとに孤立して取り組んできた市民活動に、横断的なつながりと持続力を提供してきたことにありと私は考えている。そうした市民活動のエンジンのような役割を当センターは果たしてきたし、これからもその役割を遂行していくことが使命であると思っている。サポート資源提供システム(※2)や仙台市市民活動サポートセンターなどの多くの活動は、わが国全体の市民活動にも大きなインパクトを与え、私たちが誇りにしてよい大切な財産に成長した。こうした社会インフラを生かし、政策提言を含めさらに影響力のある市民活動のインキュベーターに発展していくことが、当センターの次の10年の課題であると考えている。

※1 まちづくりに関係する企業コンサルタント、大学教授、行政職員、市民活動団体等のメンバーが参加して、行政にとってのNPOの意義などを自治体に向けて政策提言するという活動を行っていた。
 ※2 地域のNPOが必要とする様々な経営資源を、社会一般から集め、仲介・提供することで、NPOを支援し、地域を元気にする仕組み。

徒然ぶろぐ

今回は全国の公益情報が集まる
ポータルサイト・CANPANのブログ大賞・福祉賞を受賞した、
(特活)みやぎ発達障害サポートネットさんのブログ
(<http://blog.canpan.info/mddsnet/>)
から記事を紹介します!



CANPANブログ大賞は、CANPANブログの中から読むと元気になって応援したくなるブログの作者を表彰することによって、日々の活動を讃え、ブログ愛読者が増えるよう支援する事を目的として昨年より実施されています。その中で、(特活)みやぎ発達障害サポートネットさんはその発信内容を評価され今回福祉賞を受賞しました。

■(特活)みやぎ発達障害サポートネット
発達障害児・者やその家族が「あったらいいな」と願う支援の形を現実のものとするため、発達障害についての理解を広め、行政や多くの市民と協働しながら、保健・医療・福祉・教育・労働などの各分野にわたる支援活動を実践している。

■活動ダイアリー

当センタースタッフには、他の市民活動団体に所属し日々活動を行なっているメンバーも居ます。今回より、スタッフの市民活動風景を日記スタイルにて紹介！1回目は、東北HIVコミュニケーションズに所属する太田貴さんの活動風景を覗いてみたいと思います。

■東北HIVコミュニケーションズ(THC)

「HIV/AIDSによって生命や生活に影響を受けた人々が共に生きる社会をつくること」を目的に、エイズ電話相談や、HIV陽性者のケアサポート、講師派遣、啓発イベントなどを行っている。1993年設立。

■11月29日(晴れ) 広島まで飛んで、日本エイズ学会の会場へ。THCの小浜代表がパネリストを務めるシンポジウムを見に行くと、顔なじみがたくさんいた。東京、横浜、大阪、岡山、愛媛、沖縄と日本全国で地道にHIVに関わる活動している仲間たちだ。シンポジウム終了後、みなで談笑していると、学会に初参加したという愛知の人が輪に加わった。こうして全国に知り合いが増えていくのも活動していてうれしいことの一つ。全国の仲間が活動を続けている姿は、地方で活動している自分にとって励みになる。

■12月1日(晴れ) 広島から帰って、ちょっとだけ仮眠をとり36時間AIDS電話相談に参加。太田の担当は夜10時～翌朝9時。もう一人の相談員さんと二人で寝ずに電話番をする。今年は実行委員会の本部(東京)の広報が足りなかった影響で電話が少なかった。THCはこれまで通り地元へ向けて広報していたのだけれど、全国版のテレビや新聞の影響力は大きいらしい。電話を待つ間、THCの今後について熱く語ってしまった。まあ、電話は少なかったけれど有意義な時間を過ごすことができたかな。

■12月6日(晴れ) 仕事帰りに友達からお茶のお誘いメール。この友達はTHCのボランティアをやっていて、活動を通して知り合った。今では親友の一人。お互いの近況報告や、エイズ学会の話をしながら1時間くらいお茶をする。彼は、来春には恋人を追いかけて関東に行くらしいのでちょっと寂しくなるかもしれない。(太田貴)

■大切な「ご褒美」 [2007年12月3日]

先週も取材やJDD-NET(※)参加の準備と何だかバタバタしていて、とつても大切なことを皆さんにご報告することを忘れていました。そう、「受賞バナー」をブログ大賞福祉賞受賞のご褒美として、日本財団さんが作ってくださいました。これから「虹っ子広場」を開いていただいたらいつもトップページに燦然と輝くように設定します。(マニユアル見ながらバナー登録に挑戦です)審査員の方からのコメントも本当に嬉しかったです。

※日本発達障害ネットワークの略称

<湯川 鶴章さんのコメント>

「発達障害は、問題ではなく個性である」とみんなが認識できる社会になれば、どれだけすばらしいだろう。発達障害だけではない。あらゆる障害が、障害としてではなく個性として、社会に認識されるようになってほしいものである。だれよりもその強い思いを抱く人たちがつづるブログだけに、何げないエントリーに胸につきささるような説得力が存在する。

一つ一つ「夢」が実現していくために、ブログと言う発信媒体がもっともつと見えない「応援隊」として活躍してくれると嬉しいですね。

<三井コメント> 今回のCANPAN第2回ブログ大賞・福祉賞受賞ほんとうにおめでとうございます。私もブログの日々更新を目指して頑張ります！でも毎日継続って難しいんだよね？！

ランチLive

紅邑晶子

第1回

「パスタでも、おにぎりでも」

師走のある日、当センターのスタッフのランチタイムに潜入してみました！さて、どんな話をしているのでしょうか？

NPOの活動に若い人たちが参加していない団体が多いと思うんだけど。団体の名前が若者が参加したいような名前じゃない、カッコ良くないからかなあ。

名前だけじゃどんな活動をしているのか、分かりにくい団体も結構あるからね。

活動を知って欲しいのに、壁が高い感じもするし。

広報の仕方が問題なんだと思う。若い人たちに参加してもらいたいなら、若い人たちがどうしたら関心を持つか考えないと。

「薬害根絶・薬害C型肝炎訴訟支援イベント TAP LIVE」で、仙台出身の人気タップダンサーのダンスを見に大勢の人が来ていた。若い人もたくさんきてた。

2時間のイベントのうち、半分の時間を使って薬害の問題、C型肝炎訴訟の近況報告があったんだけど、きっとこの問題に関心なかった人も、いろんな気づきがあったはず。

そうそう、無関心な人に関心を持ってもらうきっかけをどう作るかをNPOは考えないと。

流行のアル・ゴアが作った「不都合な真実」の映画を見に行くとかでもね。

そういえば、あの映画見てから、こまめに電気を消すようになった人がいたね。

それって…、わたしのことですか？

ちょっと、不穏な空気が漂い始めたようなので、今日はこの辺でおしまいです。

ちなみのこの日のランチは、一番町のひろせ庵でした。



サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成19年度新規・継続会員 (敬称略・順不同、2007年10月1日～11月30日)

(正会員)

(特活) アディクト、(特活) 多賀城市民スポーツクラブ、(特活) 杜の伝言板ゆるる、地産地消を進める会、小松州子、山岡義典、関口憲一、真壁さおり、木村正樹

(準会員)

伊藤寿明、知的障がい者の社会参加支援ネットワークオレンジ、(特活) 茨城NPOセンター・commons、くらしきパートナーシップ推進ひろば

■企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

(株) 岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス宮城(株) (カラーコピー機を社会貢献価格にて)

お知らせ

■加藤哲夫のNPO経営相談

日時: 平成20年1月25日(金)

13:00～17:00

平成20年2月20日(水)

13:00～17:00

平成20年3月19日(水)

13:00～17:00

場所: せんだい・みやぎNPOセンター

相談料: 2,500円(1時間単位、会員は500円引き)

※予約制です。まずはお電話を!

■みやぎNPO夢ファンド

助成団体による中間事業報告会

みやぎNPO夢ファンドでは、平成19年度に総額450万円を11団体に助成しています。それらの団体が一堂に会し、助成事業の経過と成果を発表します。

日時: 2007年1月12日(土) 10:30～14:40

場所: 宮城県公文書館3階大研修室(みやぎNPOプラザの3階)

事前申込不要・入場無料

連絡先・振込み先など

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209
E-mail:minmin@minmin.org HP:http://www.minmin.org/

▼会費・寄付のお振り込みは、こちらへ!

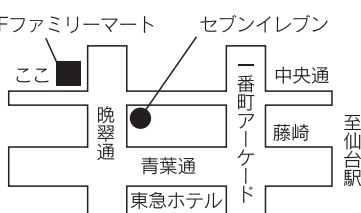
郵便振替:02260-3-16325

仙台銀行 中央通支店 普通 4094031

加入者: 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

発行: (特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一・加藤哲夫 1Fファミリーマート セブンイレブン
編集長: 内川奈津子
編集班: 紅邑晶子、三井克
発行日: 2008年1月1日
デザイン: 氏家朗



岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15～20分

| 編 | 集 | 後 | 記 |

NL・チラシの校正や、映画の観すぎ(自業自得)で、最近めつきり視力が落ちたような気がします。「お正月ぐらい目も休ませよう!」と決意しているのですが、さてどうなることやら…。(ウチカワ)

わたしの好きなバラエティ番組は、年々ひどくなる一方で残念だ。先日見た「行列のできる法律相談所」では、自分より売れているライバルを銃で撃つマネをしていた。麻生自民党幹事長も出演していた。政治家がバラエティに出演しても悪くはないが、内容を選ぶセンスが欲しい。(紅邑)

ジャズフェス実行委員の仕事も光のページメントに合わせて開催の写真展で一年の終わりを迎えます。このジャズフェスという組織は単年度で決算なのです。だから余計に忙しいのかもしれない。(三井)